

国道197号 野越バイパス 全体計画概要図

【路線概要】

国道197号は、高知県の県都高知市を起点に、高知県須崎市・愛媛県大洲市を経て大分県大分市に至る、供用実延長223kmの主要幹線道路です。

高知県内の区間についてみると、高知市から須崎市までが国道33号及び56号との重用区間があるため、実質的な実供用延長は約52.3kmで、梶原町・津野町地域の産業・経済・観光・広域行政を支える中核的な社会資本であると同時に「緊急輸送道路」としての役割も担っています。

当バイパスの現道区間は2車線になっていますが、野越・神根越の両トンネルについては、路肩部を含めても全幅6m程度と大変狭く、大型車輛はトンネル内での行き違いが困難な状況になっています。また、最小曲線半径は約30mであり設計速度V=30km/hの道路構造規格にかろうじて適合した状況になっています。加えて、冬期には積雪や凍結による大型車の接触事故やスリップによる立ち往生が頻繁に起こっている状況であり、これらの解消のため、バイパス全線の早期の完成が望まれています。

【計画概要】

事業箇所 : 高岡郡津野町高野 かんざいこ
~ 梶原町神在居
事業延長 : L=1,965m
道路規格 : 道路構造令 第3種第2級
設計速度 : 60km/h
標準幅員 : 全幅W=8.5m (登坂車線部W=11.5m)
車線数 : 2車線 (3.25m×2)
全体事業費 : 46億円
事業期間 : 平成21年度(工事着手25年度)~

【事業効果】

事業延長 : L=1,965m (現道2,600m)
所要時間 : 2分短縮 (現道4分 →バイパス2分)

当該事業【野越バイパス】は、令和3年12月25日に供用開始(予定)いたします。

